

黒田 官兵衛

戦国時代から江戸時代前期にかけての武将。

織田信長・豊臣秀吉・徳川家康のもとで多才な活躍をした知将。

キリシタン大名でもあった。

黒田孝高。通称で黒田官兵衛と。剃髪後、黒田如水。

「水五訓」

豊臣秀吉の知恵袋といわれた黒田官兵衛の教えです。

水というものを通して、人間としての生き方を教えてくれる言葉です。

1、自ら活動して他を動かしむるは水なり

（「率先垂範せよ」ということ。水は自らが動くことで周りのものを動かし、運んでいきます。人間も、自らは何もしないままで、ああしろ、こうしろと言っても、誰も動くはずがありません。自ら模範を示すことによって、周囲を牽引する人になってください）

2、常に己の進路を求めて止まらざるは水なり

（「自ら考えて道を拓くことを心がけよ」ということ。水はどんな環境の中でもその流れを止めることなく動いていきます。何か失敗した時に、周りのせいにしていませんか？自ら考え、努力することで道を切り拓いていく人になってください）

3、障害にあい激しくその勢力を百倍し得るは水なり

（「あきらめることからは何も生まれぬ」ということ。順調な水の流れもダムという壁によってさえぎられることもあります。そんな時は、その力を満々と内に蓄えます。蓄積された力があるからこそ、解放された時に巨大なエネルギーを発揮できるからです。困難に直面して、自分の可能性をあきらめてしまっただけではいけません。苦しい時もじっと耐えて努力を続けていけば、大きな力となってかえってきます）

4、自ら潔うして他の汚れを洗い清濁併せ容るるは水なり

（「人を追いやることをせず共に頑張ろう」ということ。学校や社会には様々な価値観をもつ人が集まっています。感覚、リズム、方法、価値観の合わない人を排除するのではなく、長所を見つけてそれを生かすことをまず考えましょう。川は脇から濁った水が注がれてきても、「入ってくるな」とか「出ていけ」とは言いません。様々な水を一つにまとめて、大きな目的に向かって集約していくような、そんな度量を持つ人になってください）

5、洋々として大洋を充たし発しては蒸気となり雲となり雨となり雪と変じ霞と化し凝しては玲いたる鏡となりたえるも其性を失はざるは水なり

（「常に自然の理にそって物事を考えよ」ということ。水は温度の変化、器の形によって、次々に自らの形を変えます。しかし、その本質は一切変化することはありません。我々人間もまた、変化に対応するのに常に柔軟でなければなりません。与えられた環境の中で、いかにして最大の努力を行うかが大切です）